

第3次中期経営計画 平成26年度実績について

第3次中期経営計画（平成26年度～30年度）については、PDCAサイクルによる経営管理を行い、毎年度、自己評価の結果を公表することとしています。

平成26年度の実績は以下のとおりです。

26年度の実績

●電気事業

- ・「地域への貢献」では、再エネ利活用事業費補助事業の活用・推進などの取組が目標に達していませんが、「県民との協働」「危機管理体制の強化（南海トラフ地震対策の強化）」「組織力の向上」では、ほぼ計画通りに実施できました。
- ・「独立採算の堅持」では、風力発電所の停止日数が多かった一方、水力発電は順調に運営でき、「財務状況」では「総資本経常利益率」が3.2パーセントとなり、目標値を超え健全な状況を維持できています。
- ・「電力システム改革への対応」としては、電気事業法改正後の制度等が不透明な部分もありますが、電力小売の全面自由化、卸規制の撤廃への対応方針を整理しました。
- ・以上のことから、全体としてはおおむね計画通りに実施できたと考えています。

●工業用水道事業

- ・「県民との協働・地域への貢献、顧客中心の取組の拡大」の取組では、情報提供以外の意見交換会の開催など、計画どおりには実施できていない取組がありました。
- ・「独立採算の堅持」では、企業訪問等の営業活動が行えず、目標を達成できていませんが、2件の新規契約がありました。経営面では「総資本経常利益率」は目標値に達していないものの、2,800万円余りの経常利益を計上しました。
- ・「危機管理体制の強化（南海トラフ地震対策の強化）」「業務の継続」「組織力の向上」では、おおむね計画通りに実施できました。
- ・工業用水を安定的に供給するため、独立採算を堅持しつつ、耐震・老朽化対策をいかに進めるかが今後の課題です。

マネジメントシートの見直し

- ・電気事業、工業用水道事業とも、戦略目標と具体的な取組内容の関係をできる限り明確にし、ビジョンの実現に向けて、達成状況を適切に評価できるシートとするため27年度から項目を整理し、併せて業績評価指標（数値目標）の見直しを行います。

ビジョン		地域社会の発展と県民福祉の向上に貢献															
経営指針		Ⅰ 県民に信頼される経営を目指します Ⅱ 経済的に自立した経営を維持します Ⅲ 県政の課題に柔軟に応えます Ⅳ 危機管理体制の強化を図ります Ⅴ 事業運営の基礎となる組織力向上を目指します															
戦略		地球環境と暮らしの調和について、地域とともに考え成長する															
視点	戦略目標 (取組項目)	重要成功要因	業績評価指標		年間アクションプラン (具体的な取組内容)	行動計画					年間実績	単位	内訳・行った取組等	計画達成率	平成26年度		
			年間目標	単位		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					0	100	200
県民の視点	環境保全の取組の拡大	表面取水ゲートの選択取水の効果的な運用の実施	濁度測定データ公開回数:	52回	濁度測定データの取りまとめ・分析する有効な濁水対策に向け活発に議論する	濁度対策の運用、分析、取りまとめ					77回	回	・濁度測定 ・「表面取水ゲートの選択取水運用による物部川の濁水長期化軽減に向けた取り組み」報告書作成	148%		◎	
		検討会開催数:	5回							3回	回		60%		△		
		水源涵養等公的機能の向上と林地保全を目的とした間伐の推進	切り捨て間伐面積: 搬出間伐面積: 交付金額:	55ha 57ha 481万円	物部川水源の森整備事業を活用・推進する	間伐の促進					0ha 67.7ha 469万円	ha ha 万円	・旧香北町 51.53ha ・旧物部町 7.85ha ・旧香我美町 8.29ha	0% 119% 98%	 	◎ ○	
		地域とのパートナーシップの形成	地域住民とのコミュニケーション 地域住民からの信頼度の向上	アジサイ剪定参加者数: 南喜ヶ峰フェスティバル参加者数: 物部川清掃活動参加者数:	5人 15人 3人	地域の清掃やイベント等へ積極的に参加する	清掃活動・各種イベントへの参加					12人 13人 7人	人 人 人	・アジサイ 局7人、発管5人 ・物部川 発管7人	240% 87% 233%	 	◎ ○ ◎
		再生可能エネルギーに対する理解と環境意識の向上につなげる施策	出前授業実施回数: 施設見学実施回数:	10回 10回	出前授業及び施設見学を精力的に実施する	出前授業、施設見学の実施					10回 11回	回 回	・出前・施設見学のHP改訂等でPR	100% 110%	 	◎ ◎	
	設備の信頼性向上 (計画的な修繕・改良)	水力発電所の事故防止	年間給電停止時間:	5時間以内	水力発電所の適切な点検及び巡視を継続する	適切な点検及び巡視の実施					4時間	時間	・事故の再発防止に向けた検討・マニュアル作成	100%		◎	
		風力発電所の事故軽減	年間給電停止日数: 対策の検証作業回数:	30日以内 2回	風力発電所の落雷対策の強化と検証を進める	落雷対策の強化及び効果検証					408日 1回	日 回	・のべ 野市 62日 大豊 108日 南喜ヶ峰 238日	0% 50%	 	× △	
	地域への貢献	重点課題 再生可能エネルギーの導入促進	地蔵寺川発電所(仮称)建設	発電所の運転開始: 工事災害発生数: 地域還元のための地元協議回数:	H30年度中 0回 3回	運転開始までのスケジュール管理を徹底する 地域還元のしくみを作る	地域還元のしくみ作り 実施設計 工事着手 運用開始					H30年度中 0回 14回	年度中 回 回	・許可可及び工事施行に向けた手続き ・漁協や森林組合と協議	- 467%		◎
			採算性の優れた候補地の選定(小水力)	候補地調査実施回数: 選定候補地数:	10回 1箇所	事業化に向けた候補地を調査・選定する(小水力)	候補地の調査					9回 0箇所	回 箇所	・新エネルギー調査検討WGにて、現地調査実施	90% 0%	 	○ ×
		重点課題 地域貢献事業の継続	杉田発電所上流域の環境整備と生活環境の向上に資する事業	交付件数: 交付金額:	15件 2,000万円	ダム周辺環境整備事業を活用・推進する	有効な事業活用					11件 1650万円	件 万円	・旧香北町 7件 841万円 ・旧物部町 4件 809万円	73% 83%	 	△ ○
地域資源を生かした再生可能エネルギーの利活用促進 産業振興、地域の活性化及び地球温暖化対策への寄与			交付件数: 交付金額:	5件 2,000万円	再エネ利活用事業費補助事業を活用・推進する	再エネの導入促進					2件 67.9万円	件 万円	・須崎市・土佐清水市	40% 3%	 	× ×	
財務の視点	独立採算の堅持	健全な財務状況の維持	次回料金改定交渉に向けた課題整理		適切な維持管理に必要な費用を確保する 電力システム改革の対応と合わせて入札方式の方向性を出す	協議・交渉					3.2%	%	経常利益 326,257,927 総資本 10,228,044,072	213.0%		◎	
		経費の効率的な執行 工事費等の計画的な執行	<総資本経常利益率> 経常利益/総資本×100:	1.5%以上	経費削減等、支出の適正化を徹底する 長期修繕改良計画の見直しを行う	支出適正化の徹底 修繕改良計画の見直し							・電力システム改革後の事業形態や今後の方向性についてとりまとめた ・長期修繕改良計画の見直しを行った				
内部プロセスの視点	危機管理体制の強化	重点課題 南海トラフ地震対策の強化	永瀬発電所取水口の耐震化	—	耐震化手法を見出す 財政見通しの試算表を作る	耐震化手法の検討 財政見通しの試算					—	—	・新たな耐震診断手法検討 ・耐震診断手法決定				
		ダム(ゲート)の耐震化の実施	ダム(ゲート)の耐震化の実施	—	ダム(ゲート)耐震性能照査を完了させる	実施設計 耐震工事					—	—	・河川課等からの情報収集 ・経済産業省補助事業に応募→採択				
		BCPの策定と運用	策定作業の会合回数: BCP策定件数:	10回 1件	新に役立つBCPの策定に向け活発な議論をする BCP策定後の運用と改善を進める	策定 改善					5回 1件	回 件	・BCPを策定した	50% 100%	 	△ ◎	
	業務の継続	重点課題 電力システム改革等への適応	公営電気事業経営者会議や他県との連携	他県との会議回数:	5回	活発な意見交換を実施し、連携を強める	意見交換					9回	回	・東京都や新潟県を訪問し、積極的に情報収集を行うとともに、公営の電気事業者としての連携を深めた	180%		◎
		情報収集・対応の検討・情報発信	議論する会議の開催数:	4回	電力システム改革検討WGを設置し、集中的に議論を進め対応方針を早期決定する	WG設置・検討 情報収集					18回	回	・今後の事業形態など対応方針の方向性を決めた	450%		◎	
		業務内容・職場環境の改善	HPの更新回数(データ公開含む): 業務改善箇所件数:	120回 6件	ホームページの内容を充実させる 風通しの良い職場環境をつくる 業務改善活動を推進する	ホームページの内容充実 業務改善活動の推進					110回 7件	回 件	・有料駐車場や濁度の情報をお知らせした。また、ダムの安全性についても情報を掲載し、住民が安心できるよう取組んだ ・業務を効率的に進められるよう、資料保管の方法を提案・実行するなどの改善を、日常的に行ってきた	92% 117%	 	○ ◎	
学習と成長の視点	組織力の向上	労働災害ゼロの達成	工事災害発生数: 職場安全衛生委員会の開催数: 交通安全研修参加者数: 防災訓練回数: 参加者数:	0回 4回 30人 4回 100人	職場安全衛生委員会活動を充実させる 交通安全研修、防災訓練を実施する	研修・訓練の実施					0回 6回 62人 3回 94人	回 回 人 回 人	・活発な議論を行い、安全対策の向上の道筋(予算化)をつけた ・訓練を通じて、職員に安全の重要性を再認識させ、安全活動を浸透させた	100% 150% 207% 75% 94%	 	◎ ◎ ◎ △ ○	
		人材育成・意識改革の推進で職員能力の向上	経営感覚の育成・意識向上をねらう勉強会の充実	勉強会の開催数:	3回	技術・財務・経営等に関する勉強会を実施する	勉強会の実施					2回	回	・財務や経営について学習会を開催し、理解を深めた	67%		△
		職員能力の向上につなげるチーム会等の強化	チーム会等に所属する職員の割合: 各種研修会への参加者数:	100% 150人	大多数の職員がチーム会等へ参加する 研修会等への参加者数を増やす 資格の取得を励行し、取得させる	研修会等への参加 資格取得の励行					92.5% 191人	% 人	・チーム参加49/53人(電気・工水合算) ・資格・研修等:のべ66名 ・局内技術研究発表会・外部の講習会等に多くの職員が参加	93% 127%	 	○ ◎	
		技術の継承の機会拡大	局外技術研究会の実施回数: 局内技術研究会等での発表者数:	2回 6人	局外の研究会等で積極的な発表実績をあげる 局内技術研究会を充実させる	研究会等での積極的な発表					2回 7人	回 人	・技術研究会発表会などで技術継承を図った	100% 117%	 	◎ ◎	

バランススコアカード マネジメントシート【工業用水道事業】

ビジョン		地域社会の発展と県民福祉の向上に貢献																		
経営指針		I 県民に信頼される経営を目指します II 経済的に自立した経営を維持します III 県政の課題に柔軟に応えます IV 危機管理体制の強化を図ります V 事業運営の基礎となる組織力向上を目指します																		
戦略		良質で満足度の高いサービスを提供する																		
視点	戦略目標 (取組項目)	重要成功要因	業績評価指標	年間 目標	単位	年間アクションプラン (具体的な取組内容)	行動計画					年間 実績	単位	内訳・行った取組等	平成26年度					
							H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				計画達成率	達成 状況				
県民の視点	地域への協働	顧客中心の取組の拡大	サービス向上活動の充実 要望等に対する迅速かつ正確な対応 既存ユーザーとの情報共有	ユーザー訪問回数: 意見交換会開催回数: 広報誌発行回数:	2回 1回 2回	回	湯水情報等を迅速に情報提供する ユーザー企業訪問、意見交換会を実施する 広報誌を発行する	迅速な情報提供の実施 定期訪問・意見交換会の実施 広報誌の発行						7回 0回 0回		・断水工事に伴う協議、湯水情報の提供、超過使用に関するヒアリング等を実施し、顧客満足度を高めていく取組を行った		350% 0% 0%	◎ × ×	
		地域とのパートナーシップの形成	地域行事への参加 CSRの推進	鏡川清掃活動への参加者数:	6人	人	河川一斉清掃等へ積極的に参加する	鏡川一斉清掃への参加						0人		残念ながら、実績は0となった		0%	×	
財務の視点	独立採算の堅持	重点課題 経営安定化への対応 (売上拡大)	新規ユーザーの開拓 (顧客の拡大)	新規契約数: パンフレットの改訂回数:	1件 1回	件 回	営業活動を強化する 営業用パンフレットの内容を充実していく	営業活動の推進						2件 1回		・高知市指定水道業者への訪問先をピックアップした ・営業パンフレットのデザイン・内容を充実させた		200% 100%	◎ ◎	
			企業誘致等に関する情報収集	訪問及び意見交換回数:	4回	回	商工関係部署(県、市等)への訪問及び意見交換に取り組む	定期訪問、意見交換の実施						0回		・市への訪問までの行動は起こせなかった。代わりに、県企業立地課を通して情報収集を行った		0%	×	
		重点課題 施設の計画的な修繕及び更新 健全な財務状況の維持	適切な管路更新計画の策定及び改定 (効率的・合理的な投資計画)	更新管路の優先順位の再決定	—	—	全施設の課題等を棚卸しを実施し、更新管路の優先順位を再決定する 長期修繕改良計画の作成及び見直しを行う	実施設計 工事施工						—		・施設全体の課題について検討した ・管路等の施設更新の基本的な考え方を再整理した				
			電気・機械設備の維持管理 (コスト最小)	適切なOH実施時期の決定 修繕改良計画の策定	—	—	送水ポンプ設備の費用対効果を勘案した適切なOHを実施していく 長期修繕改良計画の作成及び見直しを行う	長期修繕改良計画の見直し OHのあり方検討 OHの実施						—		・ポンプのOH周期等について基本的な方針を整理し、長期計画の見直しの検討を続けている				
	財源の確保 経費の効率的な執行 工事費等の計画的な執行	<総資本経常利益率> 経常利益/総資本×100:	1.5%	%以上	内部留保資金を一層確保していく 経費削減等、支出適正化を徹底する	支出適正化の徹底						0.7%		経常利益 28,683,029 総資本 4,081,800,708			47%	×		
内部プロセスの視点	危機管理体制の強化	重点課題 南海トラフ地震対策の強化	耐震化計画の策定	送配水管の耐震化率: 水管橋の耐震補強箇所数: 送水ポンプ井耐震補強の完了: 補修資材の購入額:	10%up/5年 1件/5年 5年以内 200万円	%up/5年 件/5年 年以内 万円	送配水管の耐震化率を向上させる 水管橋の耐震診断及び耐震化を進める 送水ポンプ井を耐震化する 補修資材の備蓄量を増やす	水管橋の耐震診断 ポンプ井の設計 工事の実施 補修資材の備蓄 資材倉庫の建設						0%up/5年 0件/5年 0年 272万円		・水管橋の耐震診断を実施し、L10Kを確認した ・送水ポンプ井の耐震補強設計を実施した		136%	◎	
			BCPの運用・推進	BCP推進チーム開催数: 訓練・研修の実施回数・参加者数:	4回 2回 50人	回 回 人	BCP推進チーム(仮)を設置し、BCPを補強していく 定期的な訓練及び研修の実施で対応能力を高める	訓練・研修の実施 BCP見直し						14回 6回 43人		・具体的な動きを時系列で検討した ・現地踏査訓練を行った ・机上訓練を4回実施した		350% 300% 86%	◎ ◎ ○	
	業務の継続	業務内容・職場環境の改善	HPの更新回数(データ公開含む): 業務改善箇所件数:	120回 3件	回 件	ホームページの内容を充実させる 風通しの良い職場環境を作る 業務改善活動を推進する	ホームページの内容充実 業務改善活動の推進						110回 6件		・ホームページ更新は、工水事業関係では35回実施した ・業務を効率的に進められるよう、資料保管の方法を提案・実行するなどの改善を、日常的に行ってきた		92% 200%	○ ◎		
		労働災害ゼロの達成	工事災害発生数: 職場安全衛生委員会開催数: 交通安全研修参加者数: 防災訓練回数・参加者数:	0回 4回 30人 4回 100人	回 回 人 回 人	職場安全衛生委員会活動を充実させる 交通安全研修、防災訓練を実施する	研修・訓練の実施						0回 6回 62人 3回 94人		・活発な議論を行い、安全対策の向上の道筋(予算化)をつけた ・訓練を通じて、職員に安全の重要性を再認識させ、安全活動を浸透させた		100% 150% 207% 75% 94%	◎ ◎ ◎ △ ○		
学習と成長の視点	組織力の向上	人材育成・意識改革の推進 で職員能力の向上	経営感覚の育成・意識向上をねらう勉強会の充実	勉強会の開催数:	3回	回	技術・財務・経営等に関する勉強会を実施する	勉強会の実施						2回		・財務や経営について学習会を開催し、理解を深めた		67%	△	
		職員能力の向上につなげるチーム会等の強化	チーム会等に所属する職員の割合: 各種研修会への参加者数:	100% 150人	% 人	大多数の職員がチーム会等へ参加する 研修会等への参加者数を増やす 資格の取得を励行し、取得させる	研修会等への参加 資格取得の励行						94.3% 143人		・チーム参加49/53人(電気・工水合算) ・資格・研修等:66名 ・局内技術研究発表会・外部の講習会等に多くの職員が参加		94% 95%	○ ○		
		技術の継承の機会拡大	局内技術研究会の実施回数: 局内技術研究会等での発表者数:	2回 6人	回 人	局外の研究会等で積極的な発表実績をあげる 局内技術研究会を充実させる	研究会等での積極的な発表						2回 7人		技術研究会発表会などで技術継承を図った		100% 117%	◎ ◎		